

2015

国語

注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊨まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

— 1 —
次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

同じクラスにいる草壁はおとなしく、クラスメイトからバカにされていた。担任である久留米もまた同じような態度を取ることがあり、「僕」のクラスメイトの安斎は、それを「先入観」と考え、激しく嫌っていた。そのため久留米の草壁に対する認識を変えさせようといういろいろな計画を考え、実行していた。「僕」と佐久間はそれに協力していた。ある時プロ野球選手（打点王氏）が学校で野球指導をすることになり、それをいい機会だと考えた安斎はあらかじめ選手に会い、草壁の野球センスをほめてくれるようお願いした。

「草壁、女子じゃないんだから、何だそのフォームは」久留米の声は大きくはないのだが、低く、あたりによく聞こえる。近くにいた生徒が、「草壁、女子みたいだつて」と言い、土田か誰かが、「オカマの草壁」と囁いた。①安斎が舌打ちをするのが聞こえた。久留米が意図的に言ったとは思わぬが、確かに、そういった発言により、他の生徒たちが、「草壁のことを下位に扱ってもよし」と決めている節はある。安斎は続けるような目で、打点王氏を見上げた。「草壁はどうですか？」と、草壁の名前をはっきりと発音し、昨日の依頼を想起させるように、言った。

打点王氏は眉を少し下げ、口元を歪めた。このスウィングを褒めるのは至難のわざ、と思ったのかもしれない。

「よし、じゃあ草壁、もう一回、やってみなさい」久留米が言ったが、そこで、安斎が、「先生、黙ってて」と言い放った。

久留米は、自分に反発するような声を投げかけた安斎に、目をやった。自分に向けられた槍の切っ先の形を、じっと確認するかのようではあった。むっとしていくかどうか分からない。

「先生がそういうことを言う」と、草壁は緊張しちやうから「安斎の目には力がこもり、声も裏返っていた。

「こんなことで緊張して、どうするんだ。緊張も何も」

「先生」あの時の安斎はよく臆せず、喋り続けられたものだ。

「はい」

「安斎、何を言ってるんだ」

「子供たち全員に期待してください、とは思わないですけど、駄目だと決めつけられるのはきついです」

②安斎は、ここが勝負の場だと覚悟を決めていたのかもしれない。立ち向かうと肚を決めたのが分かり、③僕は気が気ではなかった。

打点王氏のほうはいえ、大らかなのか、鈍感なのか、安斎と久留米との間で起きる火花を気に掛けることもなく、草壁のそばに歩み寄ると、「もう一回振ってみようか」と言った。

はい、と草壁は顎を引くと、すっと構えた。先ほどよりは強張りはなく、脚の開き方も良かった。

先入観を、と僕は念じていた。そのバットで、吹き飛ばしてほしい、と。

もちろん草壁が、プロ顔負けの美しいスウィングを披露し、その場にいる誰もが呆気に取られ、草壁がいちやく学校の人気者になるといった劇的な出来事が起こると期待していたわけではなかった。むしろ、そのようなことは起きなかった。草壁の一振りは、先ほどの腰砕けのものに比べればはるかに良くなっていたが、目を瞠るほどではなかった。

安斎を見ると、彼はまた、打点王氏を見上げていた。

腕を組んでいた打点王氏は、草壁を見つめ、「もう一回やってみよう」と言う。

こくりとうなずいた草壁がまた、バットを回転させる。弱いながらも、風の音がした。

「君は、野球が好きなの？」打点王氏が訊ねると、草壁はまた首だけで答えかけたが、すぐに、「はい」と言葉を足した。

「よく練習するのかな」

「テレビの試合を見て、部屋の中だけで、時々」とBと言った。「ちゃんとは、やったことありません」

「そうか」打点王氏はそこで、少し考える間を空けた。体を捻り、安斎と僕に「瞥をくれ、久留米とも視線を合わせた。その後で、草壁の肘や肩の位置を修正した。

草壁が素振りをする。

ずいぶん良くなったのは、僕にも分かる。同時に、打点王氏が、「いいぞ！」と大きな、透明の風船でも破裂させるような、威勢の良い声を出した。まわりの生徒たちからの注目が集まる。

「中学に行ったら、野球部に入ったらいいよ」選手は言い、そして、僕たちが望んでいたあの言葉を口にした。「君には素質があるよ」と。

④自分の周囲の景色が急に明るくなった。安斎もそうだったに違いない。白く輝き、肚の中から光が放射される。報われた、という思いだったのか、達成した、という思いだったのか、血液が指先にまで辿り着く、充足感があった。

草壁は目を丸くし、まばたきを何度もやった。「本当ですか」

その時、久留米がどういふ顔をしていたのか、僕は見逃していた。もしかすると、見てはいたのかもしれないが、今となつては覚えていない。「プロの選手になれますか」草壁の顔面は朱に染まっていたが、それは恥ずかしさよりも、気持ちの高まりのためだったはずだ。久留米の立つ方向から、^b鼻で笑う声が聞こえたのもその時だ。何か、草壁をたしなめる台詞を発したかもしれない。

「先生、草壁には野球の素質があるかもしれないよ。もちろん、ないかもしれないし。ただ決めつけるのはやめてください」

「安斎はどうして、そんなにムキになっているんだ」久留米が冷静に、淡々といふ。
「でも、草壁君、野球ちゃんとやってみたらいいかもよ」佐久間がいつの間にか、僕たちの背後に立っていた。「ほら、プロに太鼓判押されんだから」

草壁は首を力強く縦に振った。

恐る恐る目を向けると、打点王氏は僕の子想に反して、明るい顔をしていた。あれは、^c乗りかかった舟、の気持ちだったのだろうか。それとも、先生と安斎とのやり取りから、嘘をつき通すべきだと判断したのか、そうでなければ、草壁の隠れた能力を実際に見抜いたのか、いやもしかすると、豪放磊落の大打者は、あまり深いことは考えていなかったのかもしれない。彼は、草壁に向かい、「そうだね。努力すれば、きつといい選手になる」と付け足した。

久留米はそこでも落ち着き払っていた。「何だかそんな風に、持ち上げてもらってありがたいです」と打点王氏に頭を下げた。「草壁、おまえ、本気にするんじゃないぞ」とも言った。「あくまでもお世辞だからな」

念押しする口調が可笑しかったから、いく人かが笑った。場が和んだといえ、和んだが、C そんなことを言わなくとも、と僕は
^⑤ 承服できぬ思いを抱いた。

「先生、でも」草壁が言ったのは、そこで、だ。「僕は」

「何だ、草壁」

「先生、僕は」草壁はゆっくりと、^⑥ 「僕は、そうは、思いません」と言い切った。

安斎の表情がくしゃつと歪み、笑顔となるのが目に入るが、すぐに見えなくなった。なぜなら、僕も目を閉じるほど顔を歪め、笑っていたからだ。

『逆ソクラテス』伊坂幸太郎の文章による

(注1) 囁す……からかつてさわぐ

(注2) 縫る……頼る

(注3) 槍の切っ先……槍の先端のところがった部分

(注4) 臆せず……おそれず

(注5) 目を瞠る……目を大きく見開く

(注6) 一瞥をくれ……ちらつと見て

(注7) いなす……相手の攻撃をかわす

(注8) 豪放磊落……器が大きく、小さなことにこだわらない様子

(注9) 承服できぬ……なつとくすることができない

問一 波線部 a～c の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

a 至難のわざ

- | | |
|---|------------|
| ア | とてもおおげなこと |
| イ | とてもやさしいこと |
| ウ | とてもすばらしいこと |
| エ | とてもばからしいこと |
| オ | とてもむずかしいこと |

b 鼻で笑う

ア おどろく
イ うろたえる
ウ ばかにする
エ 腹をたてる
オ おもしろがる

c 乗りかかった舟

ア 危ないことに関係してしまい、抜け出せなくなること
イ さそいに応じて始めたことが、よくない方向に進むこと
ウ 軽い気持ちで始めたことに、真剣になつてしまうこと
エ いったん始めた以上、中止するわけにはいなくなる
オ いいことか悪いことを考えずに、行動してしまうこと

問二 空欄

A

C

に入る言葉を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア すらすら

イ みすみす

ウ わざわざ

エ ときどき

オ つくづく

カ ぼそぼそ

問三 傍線部①「安齋が舌打ちをするのが聞こえた」とありますが、このとき安齋が「舌打ちした」理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 久留米が「女子じゃないんだから」ということで、他の生徒も調子に乗り、草壁をバカにしたことを腹立たしく思ったから。
イ 久留米が「女子じゃないんだから」とわざと皆に聞こえるように言ったことで、思い通りの展開にならず残念に思ったから。
ウ 土田か誰かが草壁のことをあからさまにバカにしたことで、自分と同じことを考える人間がいけないことに気づいたから。
エ 土田か誰かが草壁のことをバカにしたことで、他の生徒も同じように草壁を否定的に考え始めたことにあせりを感じたから。
オ 久留米や他の生徒の発言が草壁の耳に届くことで、草壁の野球に対する意気込みをくじかれることをおそれたから。

問四

傍線部②「安齋は、ここが勝負の場だと覚悟を決めていたのかもしれない」について、次の問いに答えなさい。

(1) 安齋は誰と勝負をしようと考えているのですか。本文中から抜き出して答えなさい。
(2) 安齋にとって、この「勝負」での勝ちとはどのようなことになるのですか、説明しなさい。

問五

傍線部③「僕は気が気ではなかった」とありますが、この時の「僕」の心情を説明したものとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 担任の久留米が教師として失格であることを伝えた安齋が、ひどい目に遭うのではないかとおそれている。
イ 生徒である安齋が担任の久留米に強い口調で意見を言っているのを見て、これからどうなるのかと心配している。
ウ 安齋が思い切って担任の久留米に自分の気持ちを言ったことに対して、「僕」も味方をするべきかどうか迷っている。
エ 打点王氏と草壁のそばで安齋が久留米にけんかを売ったことで、計画が台無しになるのではと不安に思っている。
オ 担任である久留米に対する激しい抗議を間近に見て、今までとは違う安齋に気づいてとまどっている。

問六 傍線部④「自分の周囲の景色が急に明るくなった」という表現を説明したものとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 打点王氏がほめてくれたことで、今まで暗かった草壁の心が明るくなったことを表している。
イ 打点王氏の思いがけない一言で、周囲の人間が草壁を受け入れるようになったことを強調している。
ウ 打点王氏がほめたことをきっかけにして、草壁に明るい未来がやってくることを暗示している。
エ 打点王氏からの待ち望んでいた一言を聞いて、「僕」の気持ちが晴れやかになったことを表現している。
オ 打点王氏の言葉が久留米にしっかり届き、安齋の苦勞がようやく報われたことを示している。

問七

傍線部⑤「承服できぬ思い」とは何にに対していただいた感情ですか。本文の内容にそって、具体的に五十五字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑥『僕は、そうは、思いません』と言いつつとありますが、この時の草壁の説明として最も適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 今まで自分が久留米に不当に扱われてきたことに対して、初めて怒りをあらわにしている。

イ 打点王氏の言葉を聞いて急に自信を持ち、後先考えずに反抗的な態度をとっている。

ウ 久留米の考え方が間違っていることを、堂々とした態度で非難している。

エ 自分を認め、励ましてくれたことを否定するような発言に対して抵抗している。

オ 久留米にくちごたえすることを、内心怖がっていることを隠そうとしている。

問九 本文の説明として、適当なものを次の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア 多くの言葉を発することは、表情や動作の描写が重ねられることで、草壁の変化をわかりやすく伝えている。

イ 打点王氏のおおらかな人柄が比喩表現などを用いて描かれ、草壁とのやりとりや彼の一言が物語を展開させている。

ウ 大人である久留米や打点王氏に対して様々な疑問をいだく「僕」の目を通して、大人の身勝手さが表されている。

エ 担任である久留米に堂々と戦いを挑む安斎の強さと、何もできない「僕」や草壁の弱さが対照的に描かれている。

オ 担任でありながら生徒のことを全く分かっていない久留米の姿を描き、現代の学校の問題点を浮き彫りにしている。

カ 周囲の人間の心ない言葉によって深く傷つく草壁の様子を詳細に記し、傷つきやすい子どもの姿を鮮明に描きだしている。

二 次の文章（作問の都合上、原文の体裁を変えています）を読んで、後の問いに答えなさい。

① 昔から、多くの人がいろんな未来を想像してきました。それらには当然、当たっている部分もあれば外れている所もあって。求める結果は同じだけれど、別の方法で求める未来、理想に近づいているものもあります。たとえば年中適温で過ごすために、温度調節全身タイツという形での実現はしませんでした。布の材質を工夫してその状態に近づける方向で、より暖かく、より涼しくと、今も進歩が続いています。アトムにしても、携帯電話を予想はしていなかったようですが、そこは別の部分、つまり、やさしい心を持つロボットという未来

の想像図は、多くのファンを得ました。その結果、アトムのようなロボットを作ってみたいと思う人たちをおおぜい生み出し、現に世界初の二本足で歩くロボットが日本で作り出されました。そして今も、ロボットやコンピュータに人の心を持たせる、というか、人と同じように応えさせるための研究は続いています。これはある意味、作者の手塚治虫さんが呼び寄せた、あるいは間接的に作り出した未来だと言ってもいいのではないのでしょうか。

（中略）

遠い遠い昔の人たちから今の私たちを見れば、未来の道具に開かれた夢のような暮らしを送っていることになります。「ばそこん」とか「すまほ」とか呼ばれているものをちよつといじくただけで、何日かすると、はるか遠くから、それこそ場合によっては海を隔てた他の国から、いろんなものが手元に届くのです。昔の人から見れば完全に、科学や魔法を通り越して② 怪奇現象です。

今ある道具の一つ一つが、昔の人たちが、こんな道具があったらいいな、と考えて、作り出してきたものたちなのです。なら、いろんなものがあふれかえっているように見える今でも、あと十年か二十年たてば、今はまだ無い便利な道具がいくつもできているでしょう。もしも、「こんな道具ができたらいいな」と、あなたがぼんやりと考えているようなものがあつたとして、それが現実にできあがつたら楽しいと思いませんか？ たとえばそれこそ、わかりやすい例を挙げれば③ ドラえもんひみつ道具。あれにあらがれたことが無い人、というのは果たしているのでしょうか。たぶん今も世界のどこかに、あんなことができたらいいな、と、ドラえもんひみつ道具に近いものを研究している人はいるに違いありません。ですから、ひみつ道具そのものではなくても、近いものなら、④ ひよつとすると近いうちに、いえ、明日にでもできあがるかもしれません。けど、あなたの望む便利な道具が、そういうのとは少し違っていたら？ どこかの誰かが偶然似たようなことを考えて、作り上げてくれるのを待つ？ さすがにあまり期待はできそうにありません。ならいっそ、あなた自身が「その道具がある未来」を作るのに手を出してみる、というのはどうでしょう？ いえいえ。何も科学者になって研究しろ、と言っているわけではありません。A もちろん研究して自分で発明できれば、きつとすごい満足感が味わえるでしょう。ひよつとしたら発明の特許でお金持ちになれるかもしれません。とはいえこれは、誰にでもおすすめるわけではありません。なら他の方法はないでしょうか？ もちろんあります。みんなにも、「こんな道具ができたらいいな」と、同じように思ってもらえればいいのです。

ではどうやって、そんなふうに通じるのか。一番いいのは、物語を使うことです。ドラえもんのように、面白い物語の中に便利な道具が出てきて、おおぜいの人々が、そんな道具があつたらいいな、と思ってくれたなら。そんなうちの誰かが研究して、似た道具を作ってくれるかもしれません。他人まかせかよ！ と思うかもしれませんが、いいではないですか他人まかせ。人はずつとずつと昔から、得意

な人が得意なことをやり、まかせたりまかせられたりしながら栄えてきたのです。あ、もちろん、苦手な何かを他の人に任せるかわりに、あなたが自分の得意なことを他の誰かからまかせられたら、きっちりやってみせましょう。足りない力はお互い I 合う。それでいいのです。

けど⑤物語といったって、うまく話を作ることなんてできない、なんて心配はいりません。これもやはり、あなたが物語を作ることができるなら、それもいいのですが。幸い世の中には、いろんな人が描いた、いろんな物語があります。映画にドラマ、マンガや小説。その中ではさまざまな未来が、いろんな道具が描かれています。探せばその中にはきつと、面白くて、なおかつあなたがあこがれるような道具が出て来るものもあるでしょう。見つけたら、その話を知り合いにもすすめてみましょう。知り合いが同じ話を好きになってくれたなら、便利道具の話で盛り上がりましょう。そんなことでもいいのか？ と思うかもしれませんが、そんなことでもいいのです。最初の、アトムの話思い出してみてください。この話が面白いぞ、と友達同士で話題になって。ファンの輪がひろがって。最初はみんな「アトムが好き」だったのでしょうか。それがひろがるにつれ、「あんなロボットが本当にいてくれるといいな」というあこがれになって。そんなうちの何人かが研究をはじめ、とうとう実現させたのです。

II

を。

II

が

がいる現在、というのは、作者の手塚治虫さんが呼び寄せたものと言いました。けれどそれと同時に、アトムにあこがれるみんなで作り上げたものとも言えるのではないのでしょうか。物語に触れて、あこがれ、誰かとそれを共有する。たったそれだけで、あなたが望む未来は近づいて来るのです。ならあとは、参考にできる物語を捜すだけ。たとえば十の物語の中から、あなたの望みにぴったりのものを探し出すのはむずかしいでしょう。けれどももし、百の、千の物語があれば？ きつとあなたの望みに合う、いえ、ひよつとしたら、それを上回るものに出会えるでしょう。

『未来力養成教室』神坂一の文章による

問一 波線部 a「間接」、b「偶然」、c「得意」の対義語をそれぞれ漢字二字で答えなさい。

問二 二重傍線 A「もちろん」は、どこにかかりますか。次のア～オの中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

ア 研究して イ 自分で ウ 発明できれば エ きつとすごい満足感が オ 味わえるでしょう

問三 傍線部①「昔から、多くの人がいろんな未来を想像してきました」とありますが、昔の人が想像した未来の具体例を次のア～カの中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア 温度調節全身タイツ イ 布の材質を工夫したもの ウ 携帯電話
エ やさしい心を持つロボット オ 二本足で歩くロボット カ 「ばそこん」や「すまほ」

問四 傍線部②「怪奇現象」と考える理由として最も適当なものを次のア～オから選んで、記号で答えなさい。

ア 昔より科学的に進化して製品が複雑になり、また魔法もさらに工夫をして神秘性が増したから。
イ 昔の人は科学的に考えられる範囲のものしか理解せず、また理解できないものは魔法としてしまったから。
ウ 昔の人の考え方はその時代にあるものしか理解できずに、また想像しようとしなかったから。
エ 昔の人の想像力は豊かでなく、不思議なことに対して科学的か魔法でしか判断できなかったから。
オ 昔の人には絶対に思いつかず理解できないことで、不思議な信じられないことだと思われたから。

問五 傍線部③「ドラえもののひみつ道具」と同じ内容を表現している言葉を、傍線部③より前の本文中から十一字で抜き出しなさい。

問六 傍線部④「ひよつとすると近いうちに、いえ、明日にでもできあがるかもしれません」と考えられるのはなぜですか。本文中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

問七 空欄 I に入る最も適当な語を次のア～オから一つ選んで、記号で答えよ。

ア 高め イ 補い ウ 保ち エ 分かち オ 話し

問八 傍線部⑤「物語といったって、うまく話を作ることなんてできない、なんて心配はいりません」と筆者が述べている理由を本文中の言葉を使って五十文字以内で答えなさい。

問九 空欄

II

に入る最も適当な言葉を本文中から十字で抜き出しなさい。

問十 本文の内容にあてはまるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 物語の中から自分の望ましい未来を描いているものを見つけ、広めることで自分の望む未来を作り出すことができる。
イ 自分で物語を作り出し、それが実現するように自分自身で努力することが、望ましい未来を作るために大切なことである。
ウ 昔の人が想像できないくらい科学が進歩した現在なので、これからの未来へはより想像力を働かせなければならない。
エ だれもが物語を作り、あこがれを持つことでしか未来は作り出せないの、みんなが力を合わせて努力しなければならない。
オ だれもが自分の得意なことをやれば、自分の未来を作り出せるから、自分の得意なものを作り、人の役に立たねばならない。

III 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① かみの毛を一つにタバねる。
- ② 激しい雨がキョクテ的に降る。
- ③ 注意点をフクシヨウする。
- ④ 家庭エンマンの秘けつを語る。
- ⑤ ホウチヨウで野菜を切る。

